

9月 日本共産党県議団 県議会ニュース です

高村京子 県議が9月30日、9月県議会（9/21～10/7）一般質問に立ちました。
質問と答弁の要旨を紹介します。



※ 高校募集定員の確保を ※ ～15の春を泣かせない！～

高村 上小地区ではもともと高校数が少なく希望者が他地域からも流入し地元の受験生が入学できない状況が続いている。今年度上小地区では3クラス（120名分）削減された一方、153名の不合格者が出た。地区外に通うのは交通・時間・経済的にも厳しく、保護者らは約2万筆の署名を集め陳情を重ねてきた。5クラス以上の増加を強く求める。

教育長 交通の利便性が良い地域では生徒の流出が多い。より広い地域での募集定員の検討が必要であり、適正な募集定員の策定に努めたい。

※ 太陽光発電の大規模開発 事業者むけガイドラインの策定を ※

高村 大規模な太陽光発電の建設計画が各地で持ち上がっているが、県が作成した市町村対応マニュアルは、住民の不安にこたえるものになっていない。上田市内でも、あずまや高原「らいてうの家」の真横など4か所で大規模な建設計画があり、住民からは「事業者が建設適地か判断できるガイドラインを県が示して」と要望もあがっている。

環境部長 市町村対応マニュアルでは、自然公園や砂防施設など事業を回避・配慮することが望ましい区域を明らかにしており、事業者への周知に取り組みたい。

高村 関係住民や市町村担当者がワンストップで相談できる窓口を開設してほしい。

環境部長 まずは地方事務所環境課で相談できることを周知したい。

※ 地域医療 県内1680ベッドの削減案 ※

高村 県の地域医療構想素案によると、7月現在の稼働病床18,519ベッドから2025年には16,839ベッドへと1680ベッドもの削減案。国が、入院や介護施設から在宅へと次々と制度改悪を行うなかで、今ある医療施設を守りさらなる充実に取り組むことこそ、県として力を入れるべきではないか。

健康福祉部長 県調査によると、療養病床の入院患者の相当数は医学的には退院可能。自宅で最期まで療養生活を送りたいというニーズもある。介護施設での対応が必要な方もいるため、国では療養病床を介護施設に転換する議論も進めている。

高村 医師・看護師不足、病床も稼働できない地域の実情もふまえて欲しい。

※ 坂下病院の診療所化

命と健康守る病院存続への支援を ※

高村 岐阜県中津川市の市立坂下病院が診療所化・救急医療縮小の方向。利用者の2～3割は木曾南部の長野県民。県として住民の命と暮らしを守るため早急な対策を求める。

阿部知事 地域協議会における議論をしっかりと注視していく。地元の町や村の考えを共有し、一緒になって問題に対応したい。

質問を終えて…高村

持ち時間16分、歯の治療でスラスラ喋れない。「福祉医療費窓口無料化実現を求める意見書が44市町村議会から届いている。」（ここで時間切れ）
「阿部知事ご決断を！」
この最後の質問ができなかった…。ア～ア…。

